



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2016年5月 - 8月号 Vol.35

＊お知らせ：このレターは、療養以前は隔月でお送りしていましたが、当面は体調と相談しつつ、不規則なペースで書かせていただきますことをご了承ください。皆様のお祈りとご支援に心より感謝いたします。

支援者の皆様へ

ウクライナ渡航報告 vol.1

いつも皆様のお祈りを感謝いたします。前回のレターでお伝えしたように、4月にウクライナ（キエフ市周辺）を訪問しました。病気から回復してから初めての海外渡航でしたので、体力的な心配も多少ありましたが、無事に現地では有意義な視察を終えることが出来ました。お祈りに感謝しつつご報告いたします。

ユダヤ人キリスト者（メシアニックジュー）の集会

今回、FVI が原発事故後 30 年のウクライナを訪問するように導かれたのは、2012 年の「福島未来会議 2」に、ユダヤ人キリスト者の牧師であるボリス師を講師としてお招きしたのが始まりでした。同じ原発事故を経験した地域間交流はその後発展し、今年から FVI に寄せられた海外支援指定献金の中からキエフユダヤ人キリスト者の会衆（Kiev Messianic Jew Congregation 以下 KMJC）が行う麻薬中毒者の救済、刑務所でのミニストリーなどの働きに対して、年間数千ドル単位の少額の支援を開始しました。

4月23日、KMJCの安息日の集会（シャバット）への参加は、意義深い体験でした。人口約6000万人のウクライナにはユダヤ人が多く、国内に100万人前後いると言われていています。その中から近年、イエスを救い主と信じる人々が起こされてきており、KMJCはそのようなメシアニックジューを中心に1000名以上のメンバーが集う集会です。メシアニックジューの集会には様々ありますが、ボリス牧師は、「異邦人とユダヤ人が共に主に連なる」という聖書の言葉の実現を願い、メンバーの3割弱は非ユダヤ人で構成されています。日本人の私もまた、その異邦人のひとりとして彼らの集会に連なることが出来たことは大きな恵みで



キエフ市内でKMJCメンバーたちとFVIの3人。左がボリス師ご夫妻。

した。図らずも私たちが集会に出席したのは過越の祭り（ペサハ）の日の特別なシャバットでしたので、多くの示唆を与えられました。

1. 過越の食事と聖餐式

旧約聖書（出エジプト記 12 章）に、過越の日に食べる料理の規定があり、「**あなたがたはこのことを、あなたとあなたの子孫のためのおきてとして、永遠に守りなさい (24 節)**」とあります。これが書かれたのが約 3500 年前と言われているから、それ以来続けられているこの食事に、私もまた「キリストのゆえに」与りました。聖書には「**一歳の雄の子羊の肉を焼き、それに苦菜と種なしパンを添えて**」食べるようにと書かれています。子羊の肉は、過越の日に家の門柱に塗られた血（イエスの十字架の血の予表）を、苦菜はエジプトでの苦役を、種なしパンには「急いでエジプトから脱出した」ことを思い出す意味が込められています。KMJC はキリスト者の集いでもありますので、これにイエスの血を表す「ぶどう液」等が加わり、キリストの血と身体（種なしパン）にあずかる聖餐式と「**意味の重なり合った重層的な礼典**」が執り行われます。ユダヤ人キリスト者と共に、3500 年前の出エジプトと、2000 年前のキリストの贖罪の意味を同時にかみしめつつ「ひとつの身体に連なる」という体験は貴重でした。

2. 礼拝の在り方：全身を使って礼拝する「歌と踊り」、「家族という単位を大切にする」

KMJC のシャバットは通常で 3 時間、私たちが参加した日には 6 時間休みなく礼拝が捧げられます。メッセージ、聖餐式、歌と踊りなどが「無秩序の中の秩序」を保ちながら繰り広げられますが、そのなかでも賛美中絶え間なくささげられる「ダンス」は印象的でした。また、集会には小さな子どもからお年寄りまで全世代が参加し、あらゆる活動において「**家族**」という単位で参加することを大切にします。モーセ五書でも社会の最小単位は個人ではなく家族ですが、ユダヤ人は西洋近代的な個人主義ではなく、今でも家族を単位とする民族なのだと思います。また、礼拝やメッセージの在り方や内容、ボリス師の会話や実践から、全体を部分に分ける近代合理主義的アプローチではなく、物語を全体としてそのままに捉える聖書へのアプローチが印象的でした。

現在、メシアニックジューは世界中に数十万人いると言われています。ボリス牧師らがテキストとして使用している「THE NEW ONE MAN (新しい一人の人)」という小冊子の著者フィッチェンバウアー氏は、異邦人のキリスト教徒（現在のプロテスタントとカトリック）と、ユダヤ人キリスト教徒が一同に会する「第二エルサレム会議」を、使徒の働きの記事以来 2000 年ぶりに復活させることが、本当のエキュメニズム（教会の一致）の達成につながると提唱しています。偉大な神のご計画の完成を覚え、共に祈りください。次号のプレーヤーレターでは、本号に収まらなかったチェルノブイリ事故後 30 年のウクライナの歩み、KMJC のミニストリー、現在の東部での紛争の件について皆様にご紹介させていただきます。



KMJC の礼拝風景。全身を使ってイエシュア(イエス)を礼拝する



苦菜、種なしパン、子羊の肉など。過越の食事と聖餐式の融合

香川県での復帰報告会、友人達との再会

5月13日～16日に、香川県さぬき市を訪問し、OVMC（津田キリスト教会）で働きへの復帰のご報告をさせていただきました。特に10年来の親友でもある多田雅信氏をはじめとする友人の方々の祈りと友情は、絶望の深淵の最後のところで私を支えてくれたと思っています。約3年ぶりにお会いする教会の方々から励ましていただいたのは私のほうなのに、逆に多くの方々から「励ましを受けた」と言っていました。支援者の皆様に直接お会いして感謝をお伝えさせていただけたことは、神の愛と召命の再確認を与えてくれました。



再会した友人たちと湖畔でバーベキューを楽しみました

札幌においてセミナー「声なき者のひとりとして生きる」

7月16日に、札幌市手稲区のグレースコミュニティにおいて、「声なき者のひとりとして生きる」という講演で奉仕をさせていただきました。妻の純子と私の二人で、燃え尽きや鬱を患う当事者の側と、それを近くで支援する側の双方からの実体験を交えた話をし、約60名の参加者からの質問にもお答えする形式で行いました。参加者の中にはご自身や近い人が目下、同じような疾患に苦しんでいるという方も多くおられました。私たちの体験した「深い谷間の道のり」で見つけた宝が、今同じように苦しんでおられる方々のヒントとなっているとしたら、無上の喜びです。

また札幌滞在中に、所属する同じ聖協団の札幌教会（白石区）を訪問させていただき、FVIの活動の報告をさせていただきました。あまり行き急ぐことは禁忌ですが、神様のペースで、みこころのままに、今後も少しずつ活動の輪と多様性が広がっていくようお祈りくだされば感謝です。



セミナーでの質疑応答。夫婦で共に奉仕できるのはとても幸いなことです。

礼拝でのメッセージの奉仕

メッセージの「超」要約：「預言的な教会」とは何か 主題聖書箇所：エレミヤ書1章4-10節

2016年4月17日、練馬グレースチャペル主日礼拝にて

近代合理主義的な価値体系全体が行き詰まっている現代社会は「ポストモダン」の時代と表現されます。近代は「イデオロギーの時代」でしたから、キリスト教の宣教も、「キリスト教弁証学（キリスト教が正しいことを論証によって証明する）」などに代表されるようにイデオロギー色を帯びており、また「成功神学」などに透けて見えるのは、信仰がすべてを「解決」する、という勝利主義的発想でした。しかし「イデオロギーの否定」「多元主義」という言葉で表されるポストモダンの時代に「神の心」を世界に提示するには、「論証する」のではなく「物語る」こと、「組織的に大衆を集める」のではなく「有機的に共同体を形成すること、人々に「解決を与える」のではなく「意味を指し示す」ことが重要になってきます。

偽預言者のレッテルを貼られ投獄された預言者エレミヤは私たちにヒントを与えてくれます。彼は近代的価値観で判断するならば「まったく失敗した人物」でしたが、神の目で見るときに歴史上最も成功した

人物のひとりです。「神と共に人生を生きる」ことには意味があり、そうするだけの価値があります。近代が行き詰まる 21 世紀の世界で、そのことを「生きて語る」一人として私たちは呼ばれています。

祈りの課題

◇10月に愛知県で、「働く社会人が職業生活において社会変革者となる」ことを目指すセミナーを企画しています。このイベントは来年以降も継続される全国的な働きの種類となることを願っています。用いられるようお祈りくだされば幸いです。

◇私と純子の歩みのために。病気の体験を二人で証しする機会を与えられています。私たちの体験が祝福として社会に還元されるように。また、神を中心とする家庭を築く歩みを一歩ずつ、喜びをもって進んでいけるようお祈りください。

今後のスケジュール

月 日	内 容	場所、補足
8月22-23日	ローザンヌビジョンリトリート参加	富士箱根ランド（静岡県）
8月28日	礼拝メッセージ奉仕	練馬グレースチャペル
9月4日	礼拝での奉仕	浦和バプテスト教会
9月14-16日	FVI Captain's Table	万座温泉ホテル（群馬県）
9月27-30日	JCE6分科会	神戸コンベンションセンター（神戸市）
10月中旬	教会巡回とセミナー奉仕	愛知県内
10月24日	FVI 総会	本郷台キリスト教会（横浜市）
継続的に常時	FVI の各種活動	国内各地

連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」

●陣内への Email : shun@karashi.net ●ブログ : 「陣内俊」で検索

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
(同封の振込用紙がご利用いただけます。)

- *振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- *プレイヤーレターに振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、**振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。**お振込くださるときにご利用ください。
- *Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。